

地域と学校がパートナーとなって子供の成長を支える

コミュニティ・スクール通信

岩手県教育委員会事務局
生涯学習文化財課 地域学校連携担当
〒020-0034 岩手県盛岡市内丸10-1
TEL 019-629-6173
FAX 019-629-6179
E-mail DB0005@pref.iwate.jp

令和4年7月22日発行 第22号

7/6 県南教育事務所管内 「地域とともにある学校づくり」推進フォーラム

県南教育事務所管内のフォーラムでは、大槌町教育委員会教育専門官の菅野祐太氏を講師に招き、「コミュニティ・スクールがつなぐ学校と地域のこれから」と題してご講演をいただきました。

菅野氏は、大槌町のコミュニティ・スクールの立ち上げに関わる仕事や、岩手県立大槌高等学校で学校と地域を結ぶ仕事、文部科学省「コミュニティ・スクールの在り方に関する検討会議」の委員を務めていたことから、様々な立場でコミュニティ・スクールに関わってきた経験や実践についてお話をしてくださりました。また、国の施策の方向性についても、制度が作られたら経緯等について、時折グループワークや質疑応答を取り入れ、分かりやすく説明をしてくださりました。



菅野氏が考える「岩手に合う学校運営協議会の行方」

- ・地域とともに高め合っていくもの、最初から答えがあるわけでない。
(×地域は学校を監督するもの。×地域は学校を経営する力はない。)
- ・学校運営協議会委員と密に情報を交換し、学校運営の課題と地域の課題を共有し合う。
- ・地域と学校はイコールパートナー、双方の課題解決に向けて協力する。

パネルディスカッションでは、奥州市立常盤小学校長加藤均氏と奥州市立岩谷堂小学校長佐藤浩司氏をお招きし、コミュニティ・スクールによる学校と地域の連携の秘訣についてお話していただきました。

加藤均校長先生・佐藤浩司校長先生より

- ・今までは担任と担当者で直接やり取りをしていた。CS導入後は、実働の方でなく代表者と目指す子ども像を共有することで、今後の方向性についても提案をいただけるようになった。
- ・CS導入前は一対一対応だったが、導入後は、同じ場所に集まっているいろいろな話ができる等、横のつながりができた。一堂に会する意味が大きい。
- ・学校運営協議会委員からキャリア教育等、テーマを絞って熟議を深めるといいという意見をいただいた。
- ・先生方に地域の方々からどのようなお力を借りたいか記入してもらい、一覧表にまとめて第1回学校運営協議会で学校運営協議会委員にお示しした。
- ・制度をうまく生かすことが大事。学校長自身がプラスに捉え、それを生かすんだという思いで取り組むことが大切である。

本通信は下記ホームページに掲載しています。(※ダウンロード可能)

岩手県生涯学習情報提供システム「まなびネットいわて」

<https://manabinet.pref.iwate.jp/hp/>



「まなびネットいわて」には、文部科学省が作成したパンフレットや全国の事例紹介があります。また、岩手県が作成した資料や県内の事例等の紹介もあります。ぜひ、ご覧ください。